

## 努力事項解説 その5～②～ (小学校音楽)

学校や児童の実態等に応じて、4つの評価の観点を基に題材の評価規準及び指導と評価の計画を作成し、多面的に学習状況を把握する。

### ～②～ 第4観点「鑑賞の能力」を考える

評価の観点の趣旨の文言が異なるだけで、基本的には先日アップした中学校と同じ考え方です。

Q 1 鑑賞の授業が難しいと言われるのはなぜでしょうか？

A 1 教えることができないことを教え、評価しようとするとなしくなります。

「音楽を鑑賞する」ことについては、次のようにとらえられています。

本来、音楽鑑賞は、音楽の美しさを楽しむことである。しかし、音楽を聴いて感動する姿は人によって様々であり、音楽の美しさを楽しむことは個人的な行為とも言える。  
(平成10年告示小学校学習指導要領解説より)

- ・音楽の指導では、鑑賞指導が難しいと言われている。これは、音楽の美しさ、よさを教えることができないためである。
- ・学校における音楽鑑賞教育をどのように考え、実践したらよいのであろうか。音楽鑑賞指導の目的を音楽美の享受すなわち音楽の美しさを味わわせることとするのであれば、これは個人的な行為であるから、他人が教育すると言った性格のものではない。ある人が「芸術的に価値のある曲だからその美しさを味わいなさい」と言ったとしても、全ての人が同じように美しいと感じるとは限らないのである。

中学校新教育課程の解説（音楽）〔第一法規〕（塩野勇記編著より）

Q 2 では、鑑賞の授業で何を教えればよいのでしょうか？

A 2 教えることができることを明らかにして指導にあたきましょう。

音楽活動の指導のねらいは、児童が自ら進んで音楽を聴こうとする意欲を育て、自分から音楽の中に何かを求め、そこから何かを感じ取ろうとする、積極的な鑑賞の態度や能力を育てていくところにある。  
(平成10年告示小学校学習指導要領解説より)

そこで、鑑賞指導の目標を、「音楽美の享受」とするのではなく、「そこに至るための重要な条件である音楽に対する能動的な態度と聴取の能力の育成」とするのである。

中学校新教育課程の解説（音楽）〔第一法規〕（塩野勇記編著より）

Q 3 具体的には、どうすればよいのでしょうか？

A 3 次のことを意識にしてポイントを絞った客観的な目標を設定し、授業を進めましょう。

① 音楽の聴き方を教えること

② 音楽に興味、関心を持たせ、音楽を進んで聴こうとする態度を育てること

ねらいを設定するときの具体的なポイントです。

- ① 指導目標を焦点化すること
- ② 聴き取らせるポイントを明確にすること
- ③ 聴き取らせるポイントを客観的なものにする

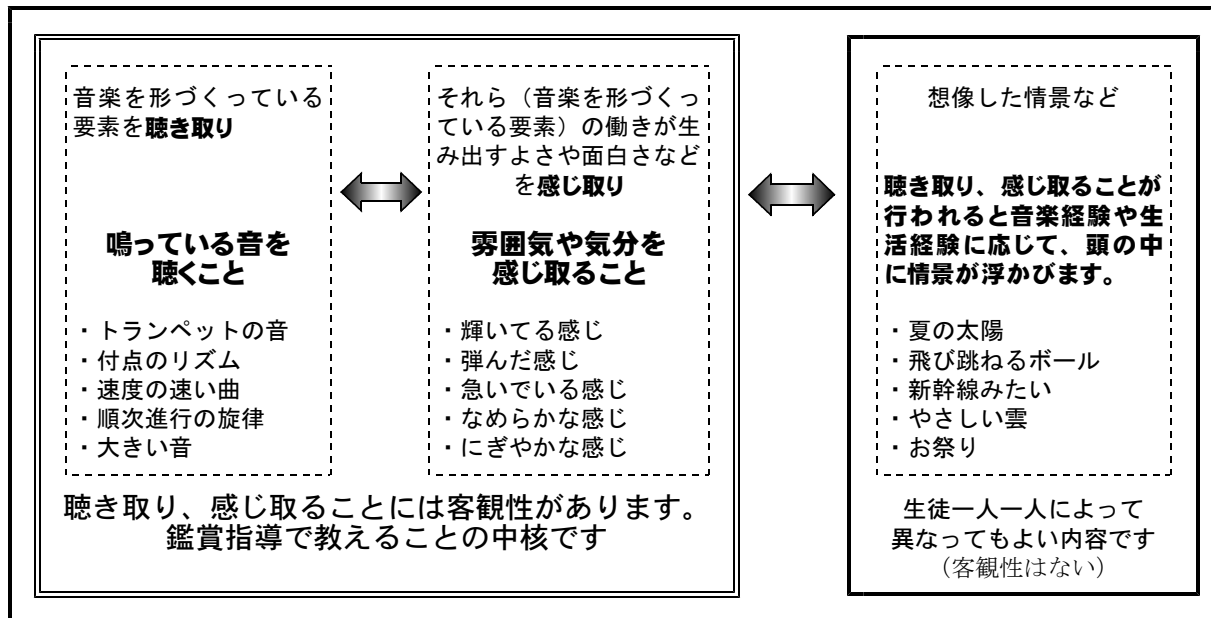
客観的な内容に絞っていくと、第4観点「鑑賞の能力」の趣旨に行き着きます

音楽を形づくっている要素を**聴き取り**

それらの働きが生み出すよさや面白さを**感じ取りながら**

楽曲の特徴や演奏のよさなどを考え  
味わって聴いている。

聴き取り、感じ取りながら、とは？



例えば、ヘンデル作曲の『アラホーンパイプ「水上の音楽」から』を聴いて「トランペットの音が聴こえる。ホルンの音も聴こえる。同じ旋律を1回目はトランペットで、2回目はホルンで演奏している。」と認識することが、音楽を形づくっている要素の「トランペット、ホルンの音色とその違い、構成（反復）」を聴き取るということです。

そして、それを「トランペットの音色は輝いている感じ、ホルンの音色が勇壮な感じがする。同じ旋律を違う音色の楽器で繰り返して演奏していて音色の違いがはっきりわかって面白いです。」と感ずることが、よさや面白さを感じ取るということです。大切なことは「同じ旋律を1回目はトランペットで、2回目はホルンで演奏していることで音色の違いがより明確にされ、それが楽曲の特徴のひとつになっていること。」に気付くことです。

ヘンデルは、「1715年のテムズ川での王の舟遊びの際にこの曲を演奏した。」とされている説があります。曲調から、「賑々しい感じ、楽しいきうきした気分」を感じることができれば、「聴き取り、感じ取ること」がしっかり行われているということになります。曲名が「水上の音楽」だから、必ず「舟遊び」の様子を想像しなければならないと言うことはありません。大切なことは、『音楽を特徴付けている要素が「特質や雰囲気（気分）」を生み出していることに気付くこと』です。

難しいのは、音楽の特質や雰囲気、いいかえると、音楽のよさや美しさは、ひとつの要素のみで生み出されているのではなく、様々な音楽の要素が合わさって生み出されているので、その曲のよさを生み出している中心となっている要素に絞って指導しないと、児童にとってわかりにくい、難しい授業になってしまうということです。鑑賞の授業での教師の大きな役割は、聴かせようとする音楽のよさや美しさを生み出している要素を明確にしてそれを分かりやすく生徒に伝える方法を工夫して指導を組み立てることです。



今回は、中学校の努力事項『生徒が思いや意図をもって音楽表現を追究したり、じっくりと音楽の美しさを味わう学習過程を組織し、それプロセスにおいて生徒一人一人のよい点や成長の状況などを積極的に評価し、指導に生かしましょう。』について考えてみます。

11月15日（金）頃アップする予定です。